



# 自衛隊新潟地方協力本部

## 新潟県初入港！ 多機能護衛艦「あがの」艦艇広報



新潟地本（本部長 1陸佐 村岡史朗）は7月5日（土）・6日（日）の両日、新潟西港において海上自衛隊第14護衛隊所属、護衛艦「あがの」（艦長 2海佐 藤原明永）の艦艇広報を第12偵察戦闘大隊（大隊長 2陸佐 結城倫太郎）（両日）、第30普通科連隊（連隊長 1陸佐 郡山伸衛）、（両日）新潟救難隊（隊長 2空佐 景浦浩）（5日のみ）とともに実施した。

護衛艦「あがの」は昨年就役し、艦名は新潟県を流れ日本海に注ぐ一級河川「阿賀野川」に由来、主砲・近接防空ミサイル・対艦ミサイル・アスロック短魚雷・哨戒ヘリコプターというあらゆる方向へ対応しうる装備の他、海上自衛隊で初めて無人機による機雷処分を実施し、護衛艦としては初めて機雷戦能力を獲得した最新鋭の多機能護衛艦であり、新潟県へ入港するのは今回が初めてである。

当日は「あがの」の新潟入港を待ちわびた多くの来場者が会場を訪れ、2日間合わせてのべ8000人にのぼった。これは昨年同港で行われた「あさぎり」艦艇広報を上回る数で、過去最高の来場者となった。

特別見学では、乗組員でなければ入ることができない艦橋や作業艇の格納庫などを乗組員の説明を受けながら回った。見学者は「艦内に入ると新造艦らしい香りが満ちていました。」「艦橋が想像した以上にシンプルかつコンパクトで驚きました。」などの感想を語った。

募集ブースでは、広報官による自衛隊制度説明や現役防大生との懇談会が設けられ、対象者やその家族が熱心に話を傾け、「直接お話しすることができて、疑問に思っていたことや不安なことなど質問できてよかったです。」「自衛官への興味が湧いてきました。」と話した。

新潟地本は「今後も艦艇広報を通じて、自衛隊に対する理解を深め志願者獲得に繋げていきたい。」としている。

